

愛知県瀬戸市蛇ヶ洞川 オオサンショウウオ生息分布調査

発見の経緯

愛知県瀬戸市の北部を流れる蛇ヶ洞川では、以前からオオサンショウウオが生息していることが知られていました。1994年に蛇ヶ洞川の河川工事が計画され、この事前調査により7個体のオオサンショウウオが確認されました。

オオサンショウウオ生息分布調査

蛇ヶ洞川のオオサンショウウオについては、2000年より名古屋市東山動物園により学術調査が行われ、中流域を中心に43個体が発見されていました。その後2006年度より2008年度にかけて瀬戸市が文化庁の補助を受けて調査を実施しました。調査は「瀬戸市オオサンショウウオ調査委員会」（委員長 日本ハンザキ研究所長 栃本武良氏）を中心に、地元の「瀬戸サンショウウオを愛する会」やオオサンショウウオ研究者が参加して行われ、2009年に報告書が刊行されました。



調査報告書



調査の様子(夜間調査)

調査の方法

オオサンショウウオは夜行性の動物であるため、夜間調査を行いました。河口から上流の蛇ヶ洞ダムまでの区間(約4.4km)を午後8時から12時頃にかけて踏査し、エサを求めて川の中に出てきたオオサンショウウオを捕獲し、計測、写真撮影などを行いました。また、動物個体識別用のマイクロチップを捕獲したオオサンショウウオに埋め込み、生息数と同じ個体がいつどこで発見されるかを調べました。

繁殖や生息環境については、産卵や幼生の数、隠れ家となる岩陰の数やエサとなる魚の量を調べました。

調査の結果

調査により発見されたオオサンショウウオの成体は36個体で、東山動物園調査も合わせると53個体が登録されました。また統計的な計算による推定個体数は72個体となり、オオサンショウウオの生息地としては小規模と考えられます。体長の平均は75cmで、西日本の生息地と比較すると大型の個体が多い傾向があります。繁殖については、産卵巣穴は発見されませんでした。ふ化した幼生は3ヵ所で確認されました。しかし、幼生から成体へ変わる20~40cmのサイズの個体は発見されておらず、後継世代が確実に育っているかどうかは不明です。

オオサンショウウオが発見された場所は大きく3ヵ所に分かれ、移動もそれぞれの範囲内で行われていました。生息環境調査では、岩陰が多く魚も多い場所でサンショウウオが発見される傾向がみられますが、条件が良くても発見されない場所もあり、こうした条件以外にもオオサンショウウオの移動や生息範囲を規定する要因があると推測されます。

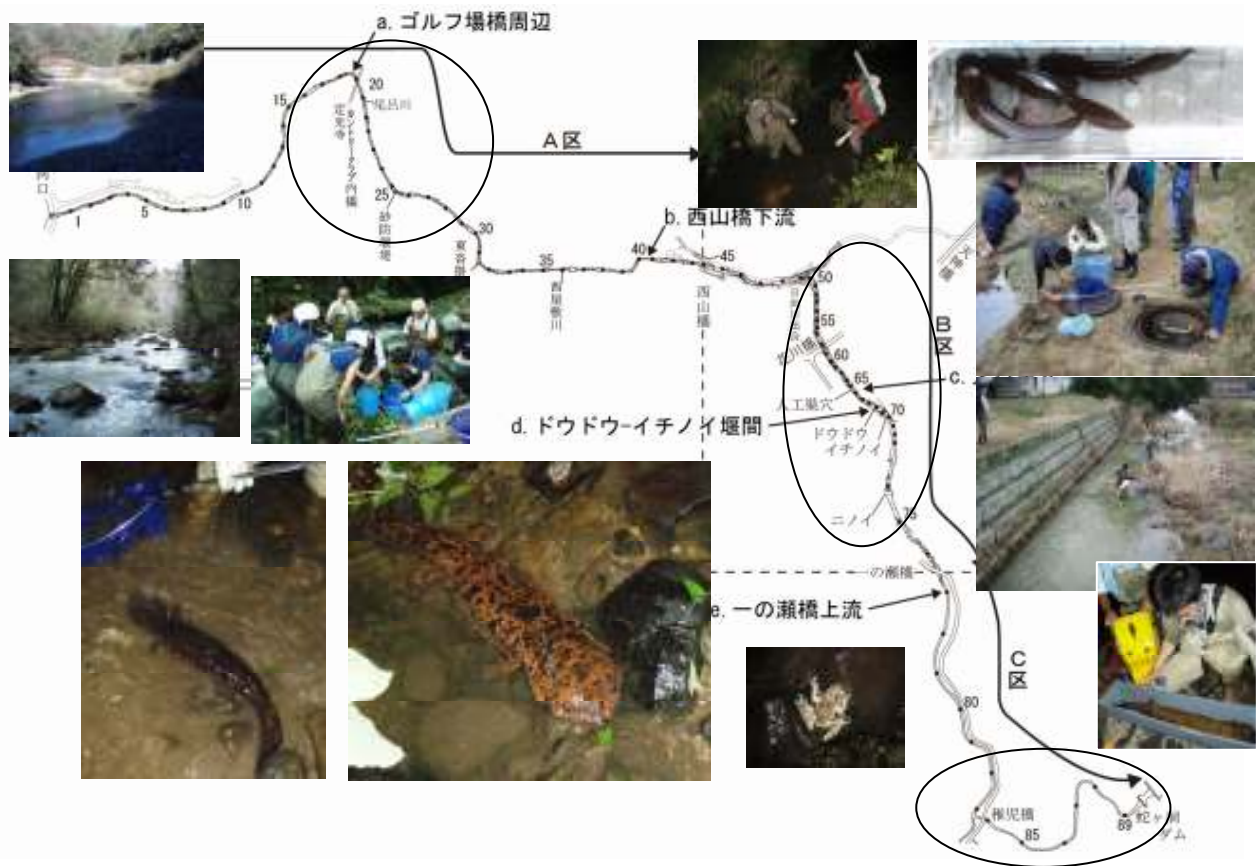


図 1

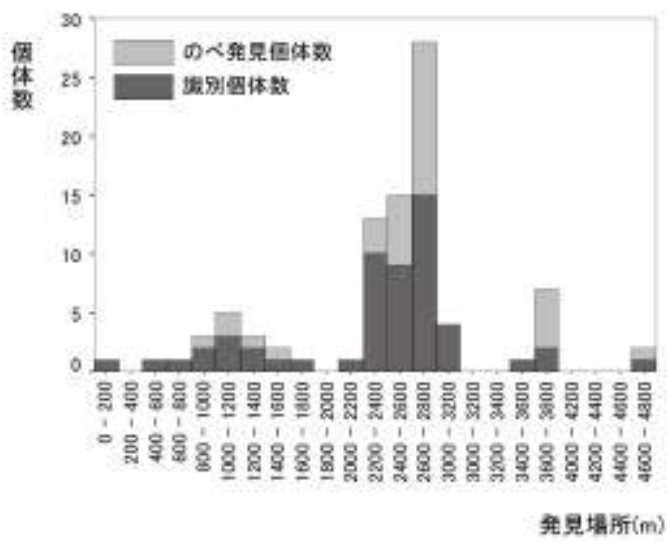


図 1 個体の発見場所の頻度分布図. 発見場所は、蛇ヶ洞川と庄内川の合流点を 0m として上流方向を正で示した

図 2

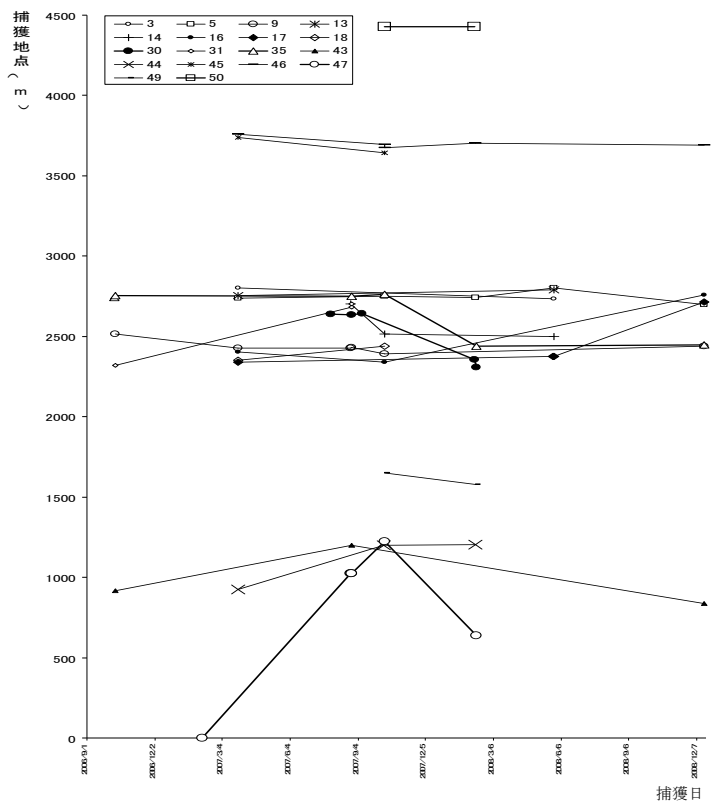


図 2. 調査期間中に再捕獲された 18 個体の移動の軌跡. 捕獲地点 0m は本流の庄内川との合流点をさし、上流方向を正で示している. 4500m 地点にはダムがある.

田口勇輝「IV調査の結果 1 個体確認調査」
『愛知県瀬戸市特別天然記念物オオサンショウウオ生息分布調査報告書』2009年 瀬戸市 より